



コンサルティング現場からの知見共有  
『VUCAの時代にこそ重要な組織間の連携  
～可視化・視野/視点・フロー～』

真川 太一（さながわ たいち）氏

TDCソフト株式会社 コンサルティング本部 コンサルティングサービス部  
SAFeコンサルタント（SPC6）

2024年4月25日(木)  
18:30-20:00開催



# アジェンダ

- |             |                |
|-------------|----------------|
| 18:30-18:35 | オープニング         |
| 18:35-19:00 | SAFe原則のレクチャー講演 |
| 19:00-19:30 | 事例講演           |
| 19:30-19:55 | Q&Aおよびディスカッション |
| 19:55-20:00 | クロージング         |

# オープニング



**古場 達朗**

**Scaled Agile-Japan**

**代表執行役**

**SAFe® Practice Consultant**

# 会場: ウェスティンホテル東京

## THE WESTIN TOKYO

ウェスティンホテル東京

所在地 〒153-8580 東京都目黒区三田1丁目4-1

アクセス J R山手線・埼京線/地下鉄日比谷線「恵比寿駅」  
J R東口より恵比寿スカイウォークで約7分

会場計画



セッション：B2F「ギャラクシー」

展示ブース：B2F「ホワイエ」

懇親会：B2F「スタールーム」



# スポンサー企業一覧

ダイヤモンド  
スポンサー

NTT DATA

RS Ricksoft

 Red Hat 

 TDCSOFT

accenture

FUJITSU

プラチナ  
スポンサー

 オーグシマ総研

 APPTIO<sup>®</sup>  
an IBM Company

NEC

特別協賛

TEPSYS

※同スポンサー種別の中ではロゴをお申し込み順に掲載

# イベント概要

イベント名	JAPAN SAFe シンポジウム 2024
開催日時	2024年2月7日(水) 9:00-19:00 (セッション 9:00-18:00、懇親会 18:00-19:00)
開催場所	ウェスティン東京 B2F、ギャラクシールーム(セッション)、スタールーム(懇親会) ※会場に物理的に集まって参加する対面型のイベント
参加対象	SAFeにご興味のある方、実践されている方、実践を検討している方、組織変革を推進する立場の方 (エグゼクティブ〜リーダークラスまで幅広く)
開催目標	出席者がSAFeへの理解を一段階深める（これから取組む方、すでに取り組みを始めている方共に） 出席者同士、出席者と登壇者、出席者と出展企業のエキスパートとの交流を深める機会を創出する
参加人数	300名
集客方法	パートナー企業からの招待、ランディングページ・ソーシャル・メール、外部メディア活用等による集客プログラム
主催	Scaled Agile, Inc.
協賛	Scaled Agile パートナー企業
ホームページ	ランディングページを作成し掲載
参加費	※無料

# 全体構成

## 【午前の部】

### ① リーダーシップセッション

#### 主催者基調講演

Scaled Agile, Inc. CEO / プロダクト責任者

#### ゲスト基調講演

IMD教授 一橋大学名誉教授 / 一條和生氏

#### 国内企業経営者事例 基調講演

東京電力ホールディングス 常務執行役 / 関知道氏

#### エグゼクティブパネルディスカッション

ファシリテータ: 一條和生氏  
東京電力ホールディングス 常務執行役 / 関知道氏  
JCB 執行役員 / 中田一朗氏

## 【午後の部】

### ② 事例セッション

#### 具体的事例講演セッション

アドバンテスト(製造業) / テプコシステムズ(電力業界)  
NTTデータ(金融サービス) / 富士通(ITサービス)

#### コンサルティング知見共有

レッドハットアクセンチュア TDCソフト

#### プラットフォーム活用セッション

リックソフト monday.com

#### ミニシアター

オーグス総研 Apptio NEC

## 【朝食/昼食/懇親会 & 休憩時間】

### ③ 登壇者や他の出席者とのネットワーキング&スポンサーブース訪問

# JAPAN SAFe シンポジウム 2024

イベント登録者総数

申込期間 : 12/8 10:00 ~ 2/5 15:00

567件

当日来場者数

411名

歩留

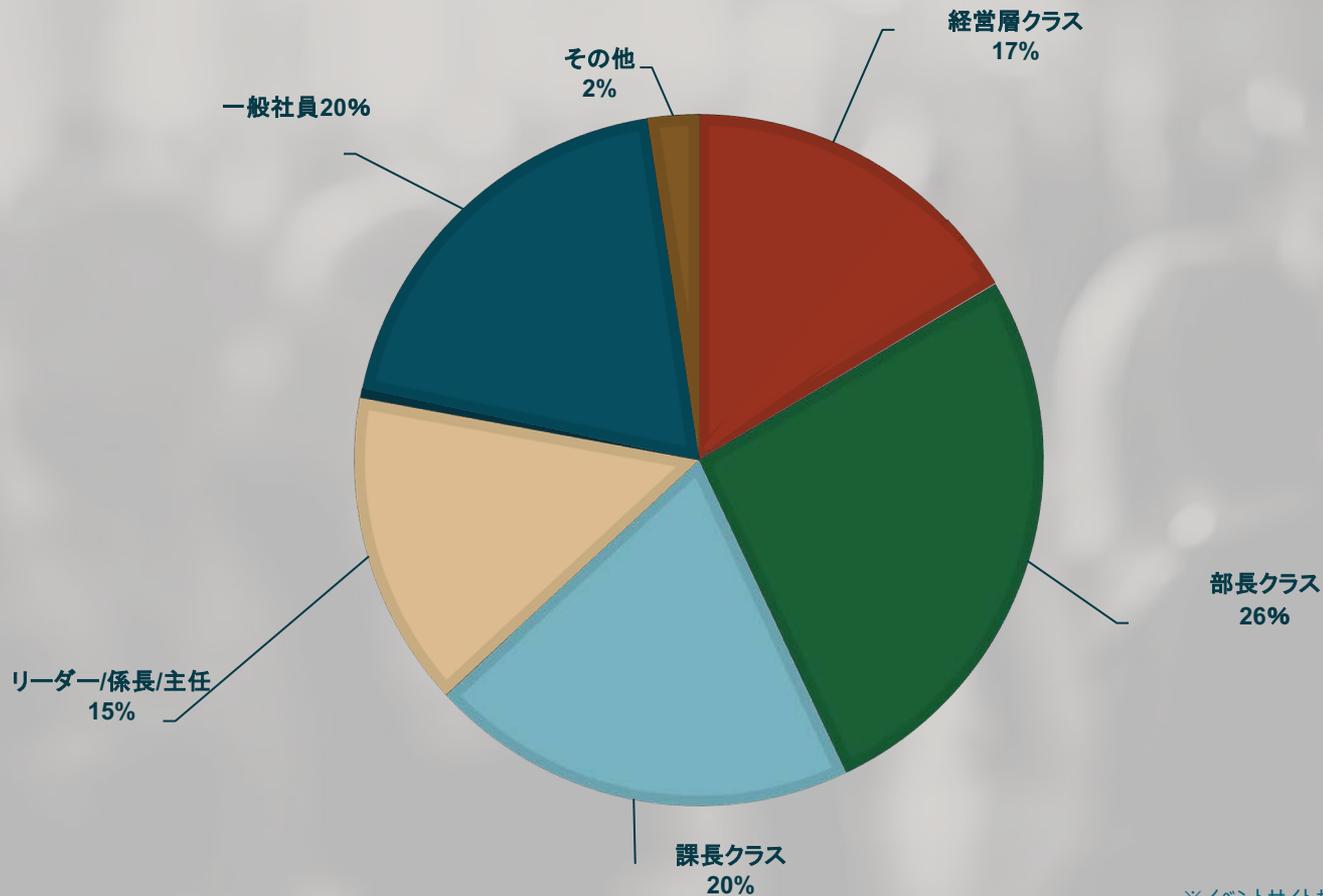
72.5%

天候



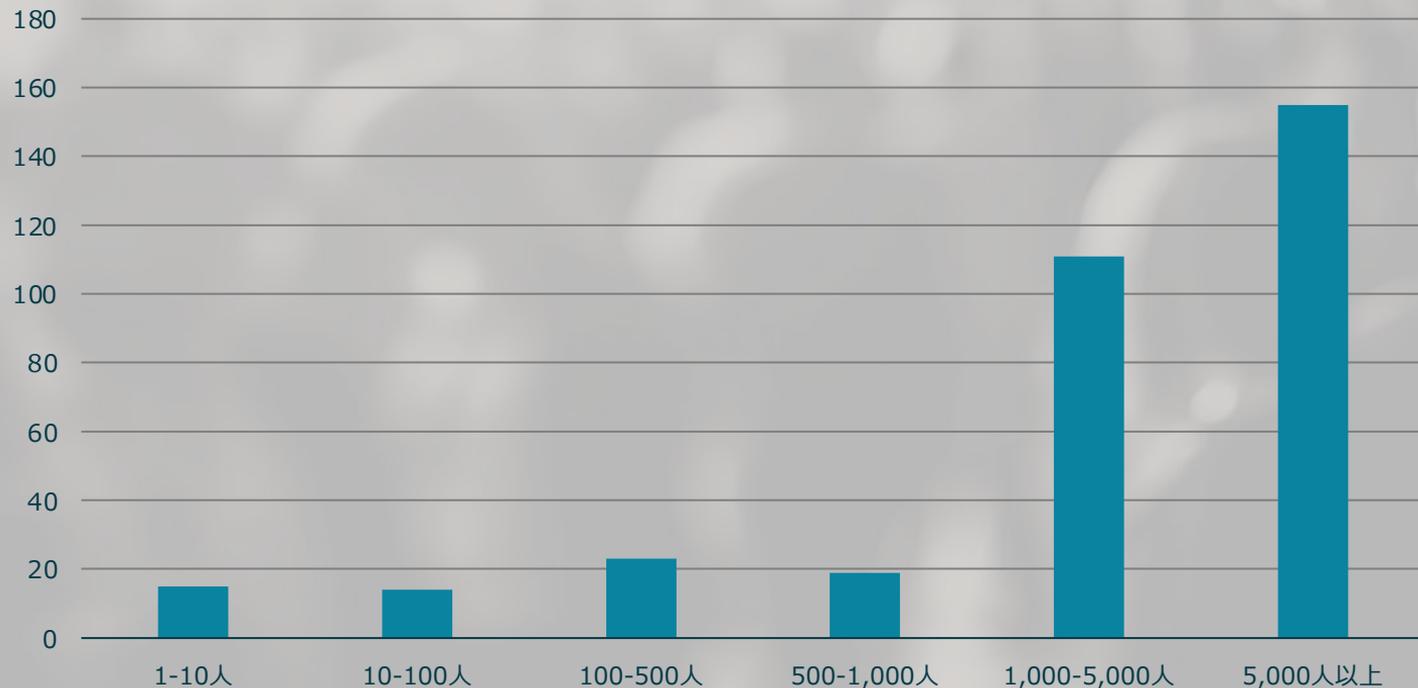
15.4°C

# 登録者属性：役職



※イベントサイトからの申し込みのみ  
※講演者、スポンサースタッフ、スポンサー招待は除く

# 登録者属性：登録者の所属する企業規模

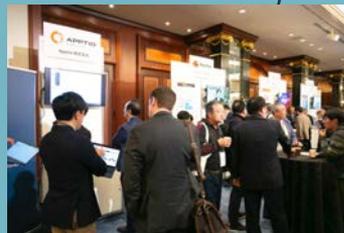
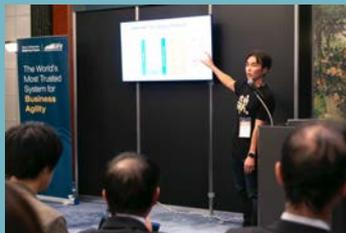


※イベントサイトからの申し込みのみ  
※講演者、スポンサースタッフ、スポンサー招待は除く

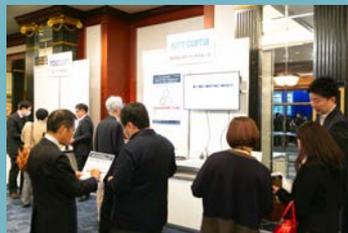
# 実施風景



# 実施風景



# 実施風景



# 丁寧に記事化して掲載いただきました



News UseCase Interview Talk Column Knowledge Google



【週間閲覧記事数】  
東京電力ホールディングス 関様  
IMD 一條教授

# Japan SAFe シンポジウム 2024 フォローアップウェビナー特設ページ



## Japan SAFe シンポジウム 2024 フォローアップウェビナー

### 『SAFeのリーンアジャイルプリンシプルを学ぶ』

2024年2月に開催された「Japan SAFeシンポジウム2024」では「変革」をテーマにセッションを実施しました。また「変革」を実現するためには、社員ひとりひとりの振る舞いを変える必要があります。それに欠かせないのが「SAFeのリーンアジャイル原則」の理解です。全7回のウェビナーは、Scaled AgileのSPCTによる「SAFeのリーンアジャイル原則」の解説と、パートナー企業による実際の適用事例やQ&Aを通して、SAFeのエッセンスを理解することを目的として開催します。

SAFeプリンシプルの記事を確認する (日本語)



SAFeのリーンアジャイル原則が変革のためになぜ必要かを解説している事前告知動画  
<https://youtu.be/Lq43eXh9uqw>

# SAFe® SYMPOSIUM

## フォローアップウェビナー

# 『SAFeのリーンアジャイル原則を理解する』

## ウェビナーのスケジュール【全7回】

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回
 NTT DATA	 TDCSOFT	 monday.com	 accenture	 FUJITSU	 Red Hat	 RS Ricksoft
2024年3月	2024年4月	2024年5月	2024年6月	2024年7月	2024年8月	2024年9月

# アジェンダ

- |                    |                       |
|--------------------|-----------------------|
| 18:30-18:35        | オープニング                |
| <b>18:35-19:00</b> | <b>SAFe原則のレクチャー講演</b> |
| 19:00-19:30        | 事例講演                  |
| 19:30-19:55        | Q&Aおよびディスカッション        |
| 19:55-20:00        | クロージング                |

# 解説講演



中谷 浩晃

Scaled Agile, Inc.

ストラテジックアドバイザー

SPCT

「世界中の経営者や行政機関を悩ませる共通の病は、  
「うちの問題は違う」という考えです。  
問題はそれぞれ違いますが、プロダクトやサービスの品質を  
向上させるための原則は、本質的には普遍的なものです」  
— W. エドワーズ デミング、『Out of the Crisis』（『危機からの脱出』）



W. エドワーズ デミング氏の写真 (提供: W. Edwards Deming Institute®)

#1 経済的な視点を持つ

#2 システム思考を適用する

#3 バラツキを前提とする。複数の選択肢を持ち続ける

#4 迅速で統合された学習サイクルでインクリメンタルに構築する

#5 マイルストーンは動作するシステムの客観的な評価に基づく

#6 途切れることのないバリューフローを実現する

#7 ケイデンスを適用する。分野横断のプランニングで同期する

#8 ナレッジワーカーの内発的なモチベーションを解放する

#9 意思決定を分散する

#10 バリューを中心にオーガナイズする



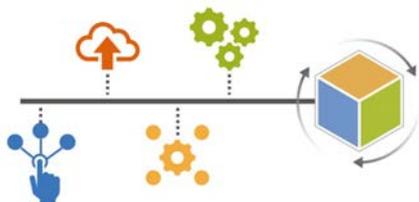
“

*Cadence and synchronization limit the accumulation of variance.*

—Don Reinertsen, *Principles of Product Development Flow*

## #2 – システム思考を適用する

- ①ソリューションそのものがシステム    ②ソリューションを構築するエンタープライズも1つのシステム    ③バリューストリーム全体を最適化する



例：システム思考の3つの主要な側面

## #2 – システム思考を適用する

システムは管理されなければなりません。  
自分では管理できないのです。システム自身に  
管理を任せると、各コンポーネントが競合して  
自分の利益のみを利己的に追求するようになり、  
システム全体が崩壊します。  
大切なのは、組織全体の目的に向かって  
コンポーネント同士が協力することです"

– W. エドワーズ デミング、  
『The New Economics for Industry, Government, Education』

W. エドワーズ デミング氏の写真 (提供: W. Edwards Deming Institute®)

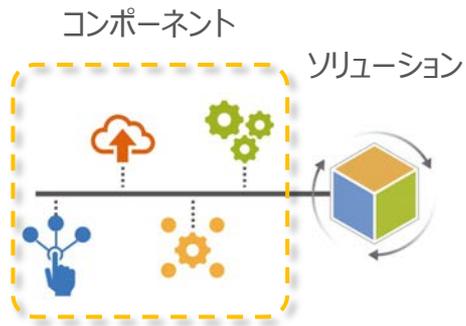


## #2 – システム思考を適用する

ソリューションの最適化の実現には：~~コンポーネントの最適化？~~

全てのコンポーネントを含んだ全体最適化

### ①ソリューションそのものがシステム



CPU, メモリ,  
バッテリー

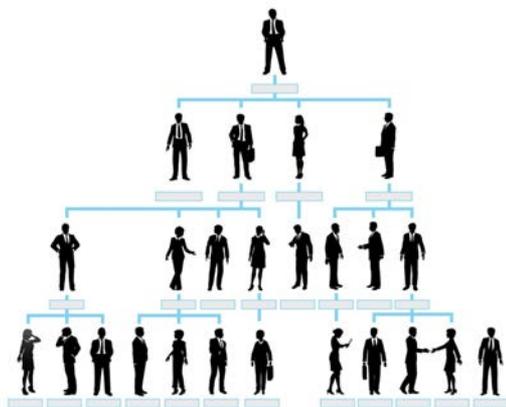


限りあるリソースを  
OSやアプリケーションで共有し、  
ソリューションとしての  
パフォーマンスを最大化する

## #2 – システム思考を適用する

ソリューションの最適化の実現には: 全てのコンポーネントを含んだ全体最適化

②ソリューションを構築するエンタープライズも1つのシステム



組織におけるコンポーネント:

→ 部 / 課 / グループ 等

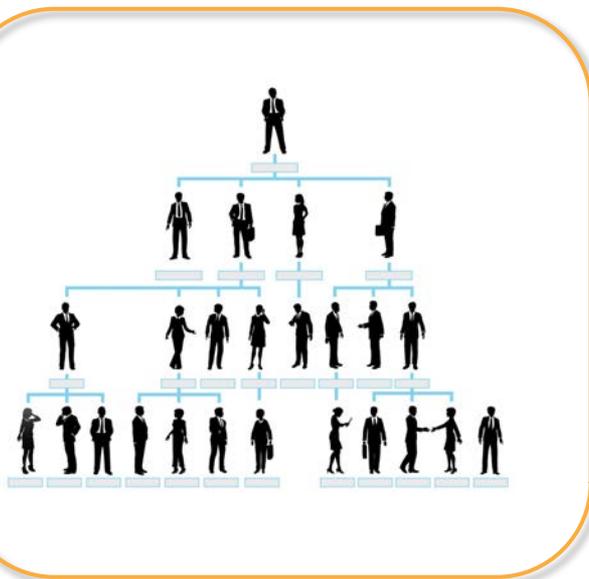
例題1: 第100部にエース集結  
組織全体最適化できるか?

例題2: 外部サプライヤと協働する時  
組織全体最適化できるか?

## #2 – システム思考を適用する

ソリューションの最適化の実現には: 全てのコンポーネントを含んだ全体最適化

②ソリューションを構築するエンタープライズも1つのシステム



組織の全体最適化:

➔ 機能横断型組織を編成

- 従来型階層組織のローカルチーム最適化
- 機能階層組織の最適化

上記は、顧客に価値を届けるフローを阻害するサイロを無くすことができない。

価値を最も早く届けることができる  
メンバーを組織のあらゆる所から集め  
チームを編成する

➔ アジャイルチーム、ART

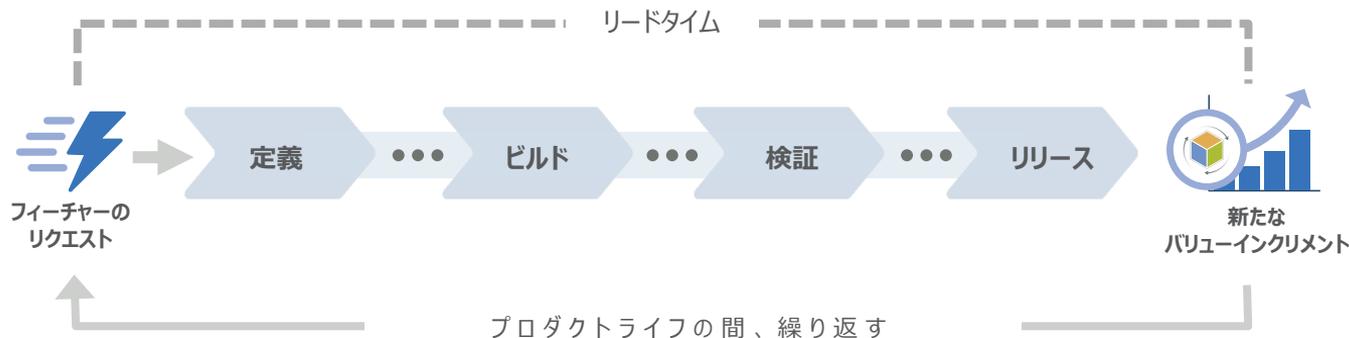
## #2 – システム思考を適用する

ソリューションの最適化の実現には: 全てのコンポーネントを含んだ全体最適化

### ③バリューストリーム全体を最適化する

バリューストリーム:

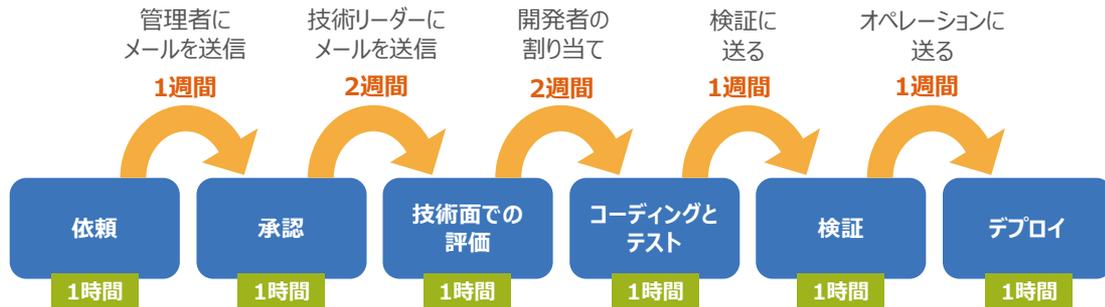
- 機会の認識から、リリースと検証までのアクティビティを含む
- 価値を付加するステップ、情報とマテリアルのフロー、ソリューションの開発要員を含む



## #2 – システム思考を適用する

ソリューションの最適化の実現には: 全てのコンポーネントを含んだ全体最適化

### ③バリューストリーム全体を最適化する



6時間分のバリュー...

...そのデリバリーに7週間かかる

$$\frac{1日}{49日} = 2\% \text{のフロー効率}$$

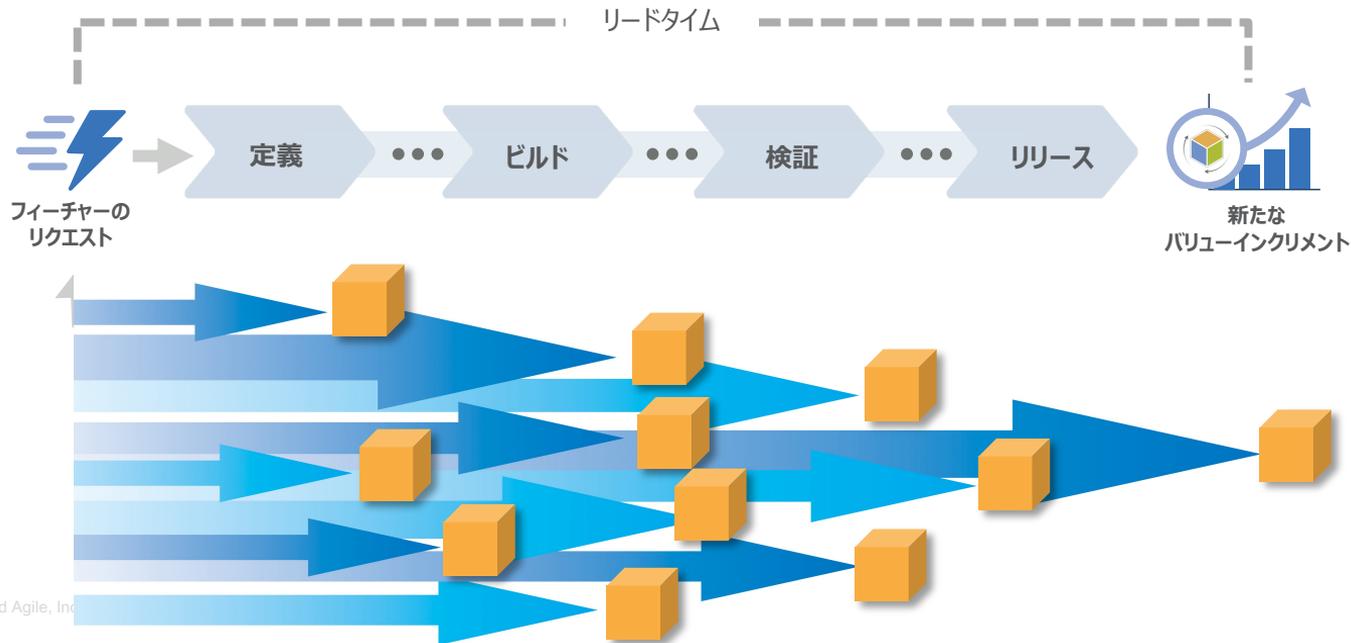
## #2 – システム思考を適用する

③バリューストリーム全体を最適化する



## #6 –途切れることのないバリューフローを実現する

バリューストリームの中で価値を途中で止まることなく作り出し顧客に届ける

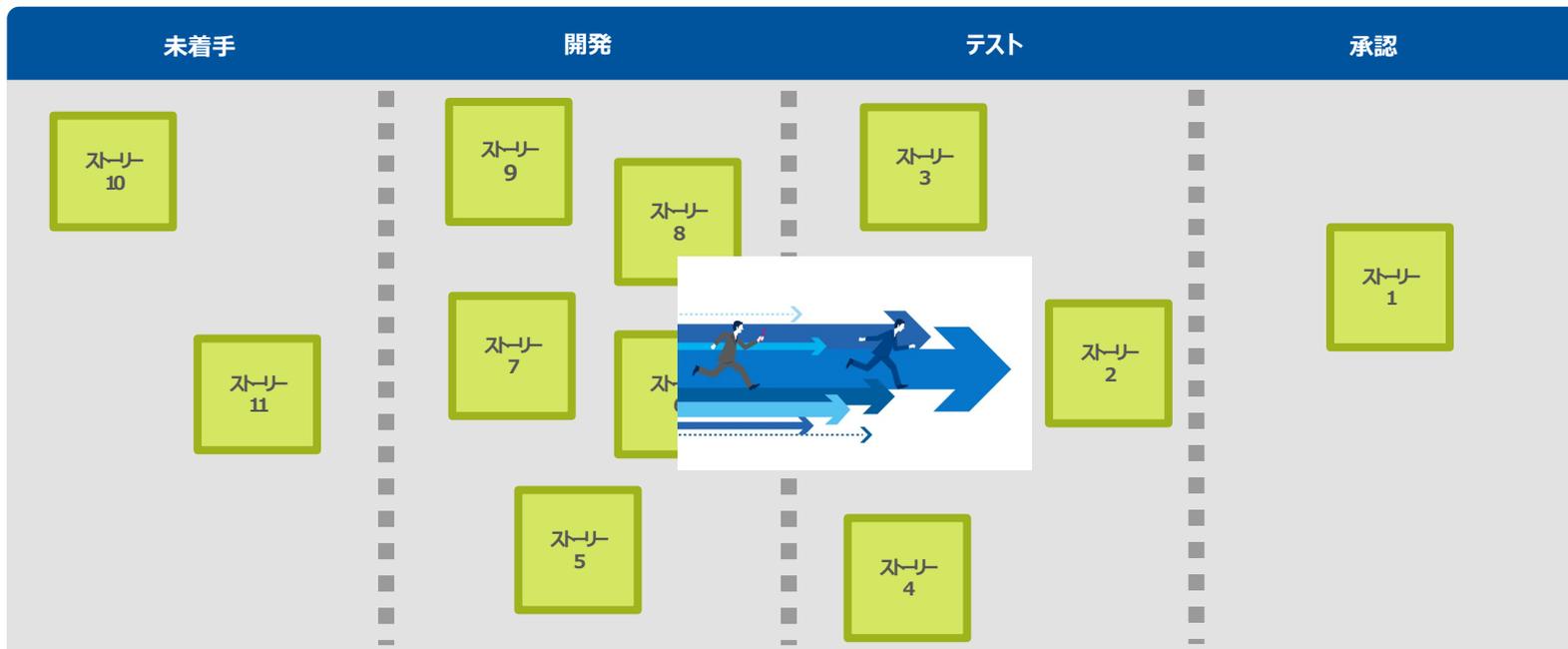


## 8つのフローアクセラレーター

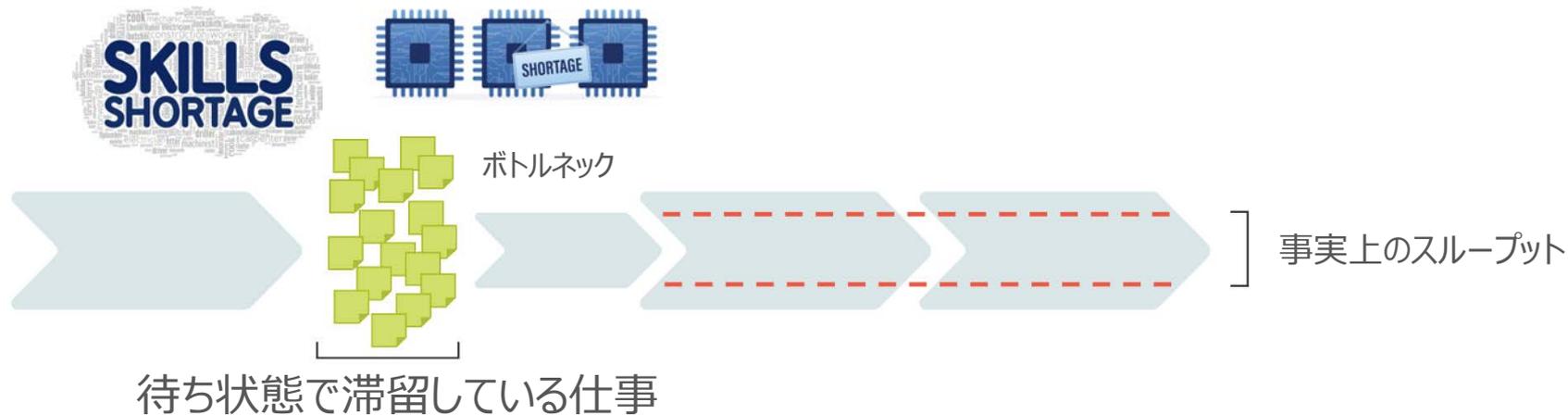
1. WIP(Work In Process)を可視化して制限する
2. ボトルネックに対処する
3. 引き継ぎや依存関係を最小限にする
4. 迅速なフィードバックを得る
5. 小さいバッチで仕事する
6. キューの長さを短くする
7. 没頭する時間を最適化する
8. 従来のプラクティスとポリシーを修正する

## 1. WIPを可視化して制限する

3



## 2. ボトルネックに対処する

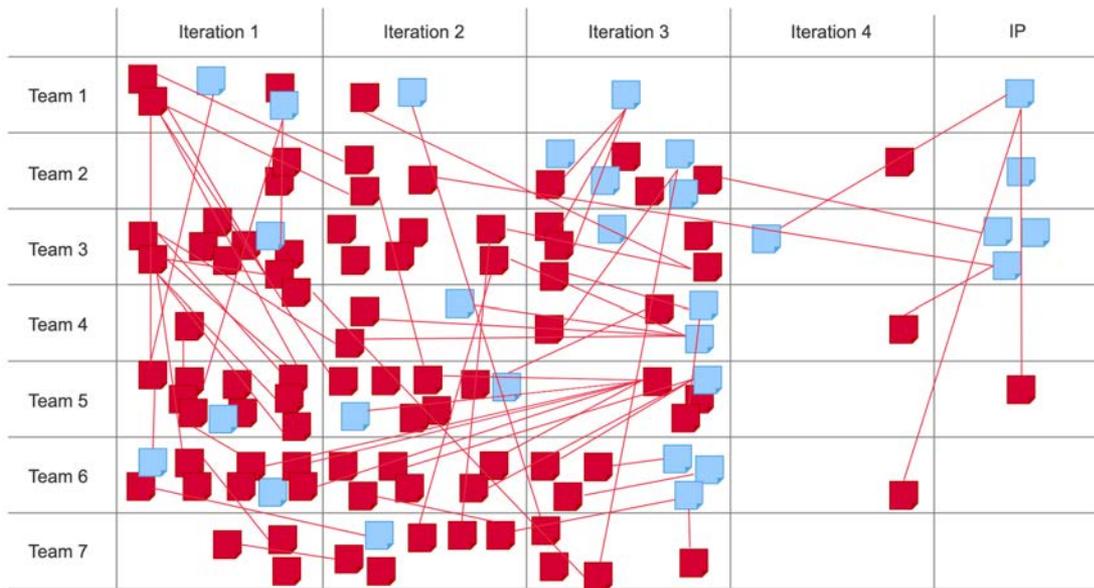


© Scalapoint  
スキル増強



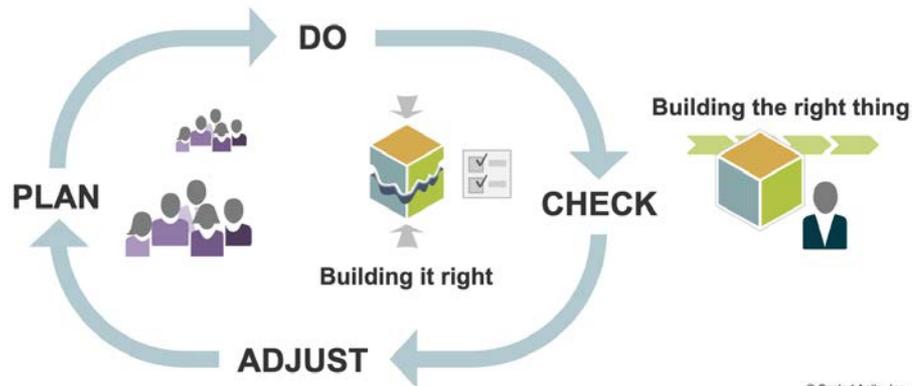
自動化環境増強

## 3. 引き継ぎや依存関係を最小限にする



© Scaled Agile, Inc.

## 4. 迅速なフィードバックを得る



© Scaled Agile, Inc.

デモを実施する



フィードバックを得る

## 5. 小さいバッチで仕事する

チームにとってパフォーマンスが最大化できる仕事の大きさは？



重量: 5キロ



重量: 2キロ

## 5. 小さいバッチで仕事する

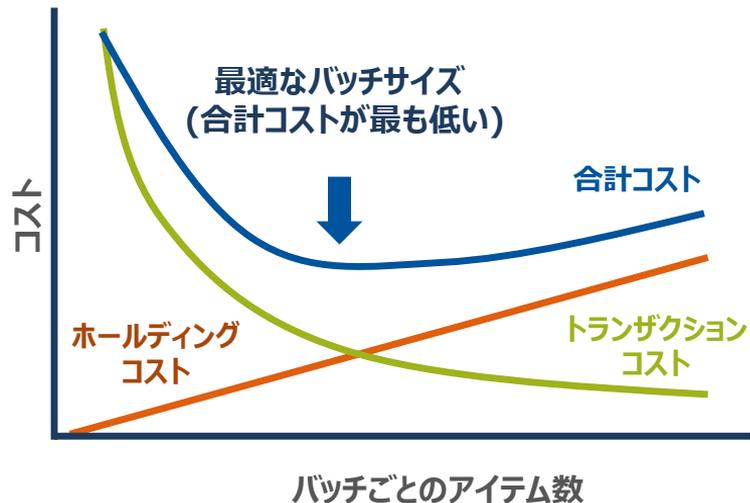
チームにとってパフォーマンスが最大化できる仕事の大きさは？



軽すぎると運ぶ回数が増えて効率低下  
重すぎると運ぶ回数は減っても時間がかかり過ぎ効率低下

## 5. 小さいバッチで仕事する

チームにとってパフォーマンスが最大化できる仕事の大きさは？

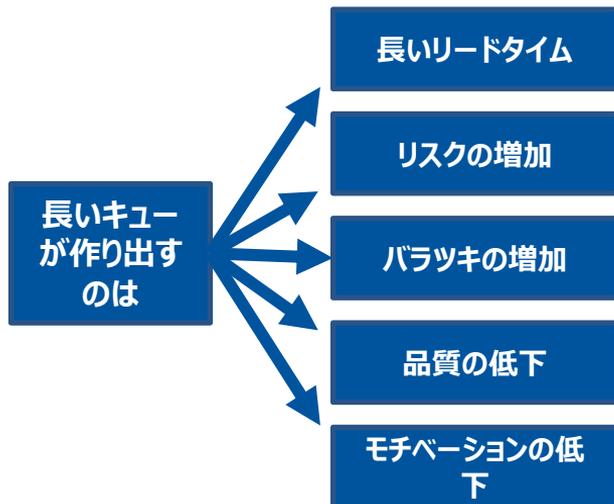


出典: 『The Principles of Product Development Flow』  
ドナルド G. ライナーセン著

チームにとって合計コストが最も低くなる最適な仕事の大きさを探す

## 6. キューの長さを短くする

長いキュー: 悪いことばかり

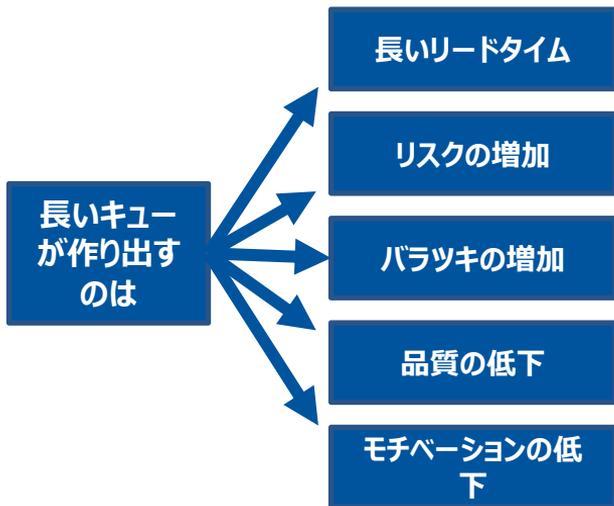


仕事の待ち行列が長くなると・・・？

出典: 『The Principles of Product Development Flow』  
ドナルド G. ライナーセン著

## 6. キューの長さを短くする

長いキュー: 悪いことばかり



出典: 『The Principles of Product Development Flow』  
ドナルド G. ライナーセン著

### リトルの法則

$$W_q = \frac{L_q}{\lambda}$$

平均待ち時間 =  
平均キューの長さを平均処理速度で割った値

### キューの長さのコントロール

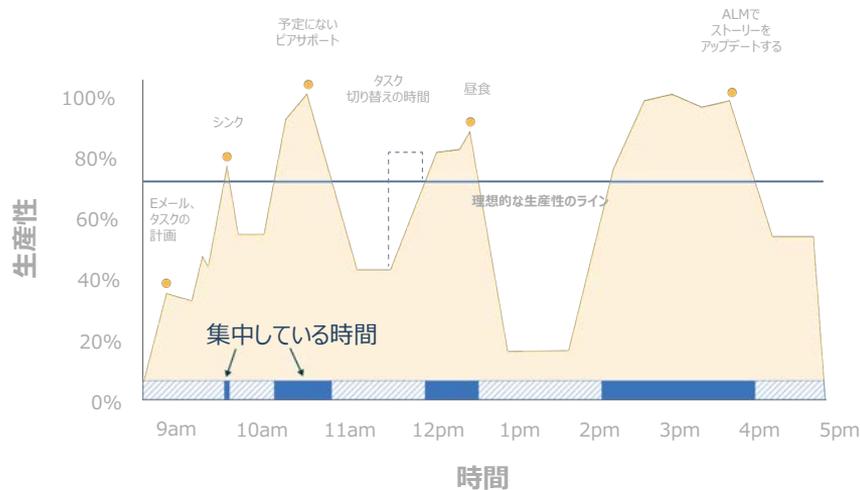
#### 1. WIP制限

3



#### 2. 仕事の大きさ(バッチサイズ)を小さくする

## 7. 集中する時間を最適化する



2.4時間 (集中している時間)

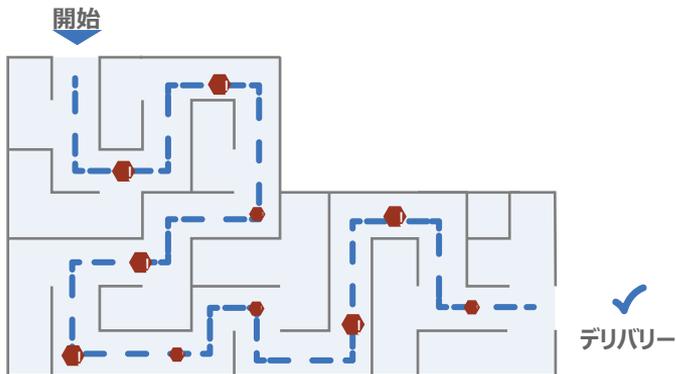
8時間 (就労時間)

= 集中している時間は就労時間の30%



周りの時間がゆっくり流れているような、  
圧倒的な集中をする時間を最適化する  
➔ 没頭する時間の最適化

## 8. 従来のプラクティスとポリシーを修正する



- ❶ 無駄なミーティング
- ❶ 過剰な報告
- ❶ タイムシートを使った報告
- ❶ レガシー-CCB
- ❶ ウォーターフォール型の品質管理システム
- ❶ ウォーターフォール型のマインドセット
- ❶ 鉄のトライアングル
- ❶ ステージゲート型のマイルストーン
- ❶ レガシーの報奨制度
- ❶ 時代遅れの標準



自分たちの決めたルールを変えられるのは、自分たちだけ

# アジェンダ

- |                    |                |
|--------------------|----------------|
| 18:30-18:35        | オープニング         |
| 18:35-19:00        | SAFe原則のレクチャー講演 |
| <b>19:00-19:30</b> | <b>事例講演</b>    |
| 19:30-19:55        | Q&Aおよびディスカッション |
| 19:55-20:00        | クロージング         |



コンサルティング現場からの知見共有  
『VUCAの時代にこそ重要な組織間の連携  
～可視化・視野/視点・フロー～』

真川 太一（さながわ たいち）氏

TDCソフト株式会社 コンサルティング本部 コンサルティングサービス部  
SAFeコンサルタント（SPC6）

# VUCAの時代にこそ重要な 組織間の連携

～可視化・視野/視点・フロー～





TDCソフト株式会社  
コンサルティング本部 コンサルティングサービス部

真川 太一（さながわ たいち）  
Sanagawa@tdc.co.jp

- ・プログラマ、システムエンジニア、プロジェクトマネージャ、製品企画、パッケージコンサルタント（ERP、BI）などITシステムを20年ほど経験。
- ・現在は、お客様のビジネス立ち上げ支援をミッションとする部門に所属。IT実装とビジネスの両方の視点とこれまでの幅広い知見をもとに、SAFe®プラクティスコンサルタントとしてお客様のSAFe®導入のコンサルティング、トレーニング講師を担当。
- ・直近では、SAFeシンポジウムへの登壇や、企業内講演などSAFeを軸に企業のビジネスアジリティ獲得に向けての情報発信の活動などを実施。





- 屋号 TDCソフト株式会社
- 所在地 本社：東京都千代田区九段南1-6-5 九段会館テラス  
関西支社：大阪府大阪市中央区北浜3-1-18 島ビル7F
- 設立 1963年（昭和38年）12月17日（創業 1962年10月16日）
- 資本金 9億7,040万円（2023年4月1日現在）
- 売上高 352億2,420万円（2023年3月期 ※連結）
- 従業員数 2,170名（2023年4月1日現在 ※連結）
- 関係会社 TDCフューテック株式会社  
エールビジネスコンサルティング株式会社

2015年  
アジャイルの取り組み開始

2017年  
エンタープライズアジャイル  
産学共同研究の取り組み開始



2019年  
Scaled Agile Inc.ブロンズパートナー締結



2020年  
Scaled Agile Inc.ゴールドパートナー締結

2022年  
TVCM(アジャイル)

2023年  
エンタープライズ  
アジャイル事業本部発足  
トレーニング実績  
累計2,000名

Project to Product  
翻訳出版



2015

2017

2019

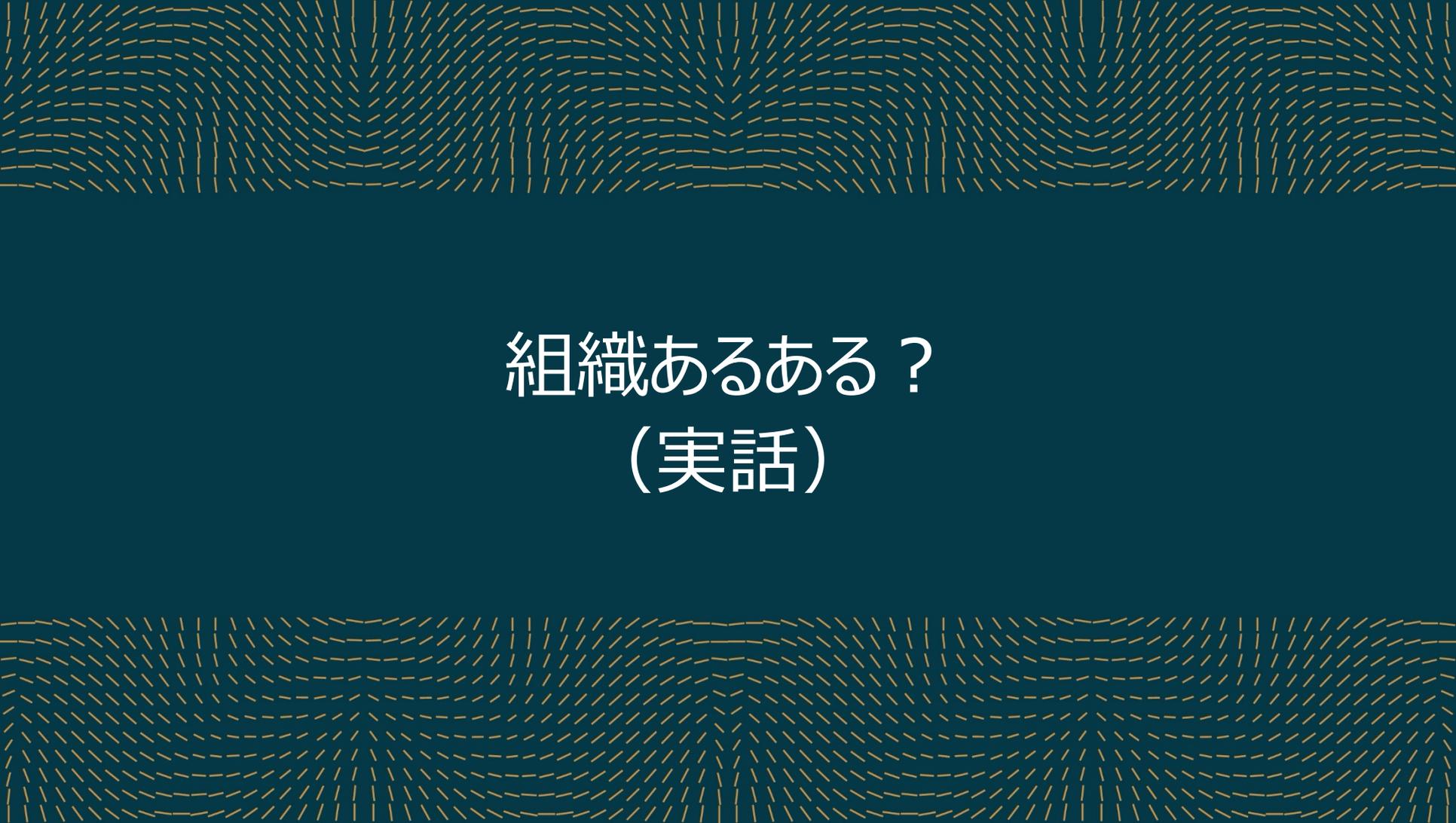
2020

2022

2023

# 本日のアジェンダ

- ▶ 日本の組織あるある（実話）
- ▶ なぜそういうことが起こるのか？
- ▶ 解決に向けての考察と実行（実話）
- ▶ まとめ

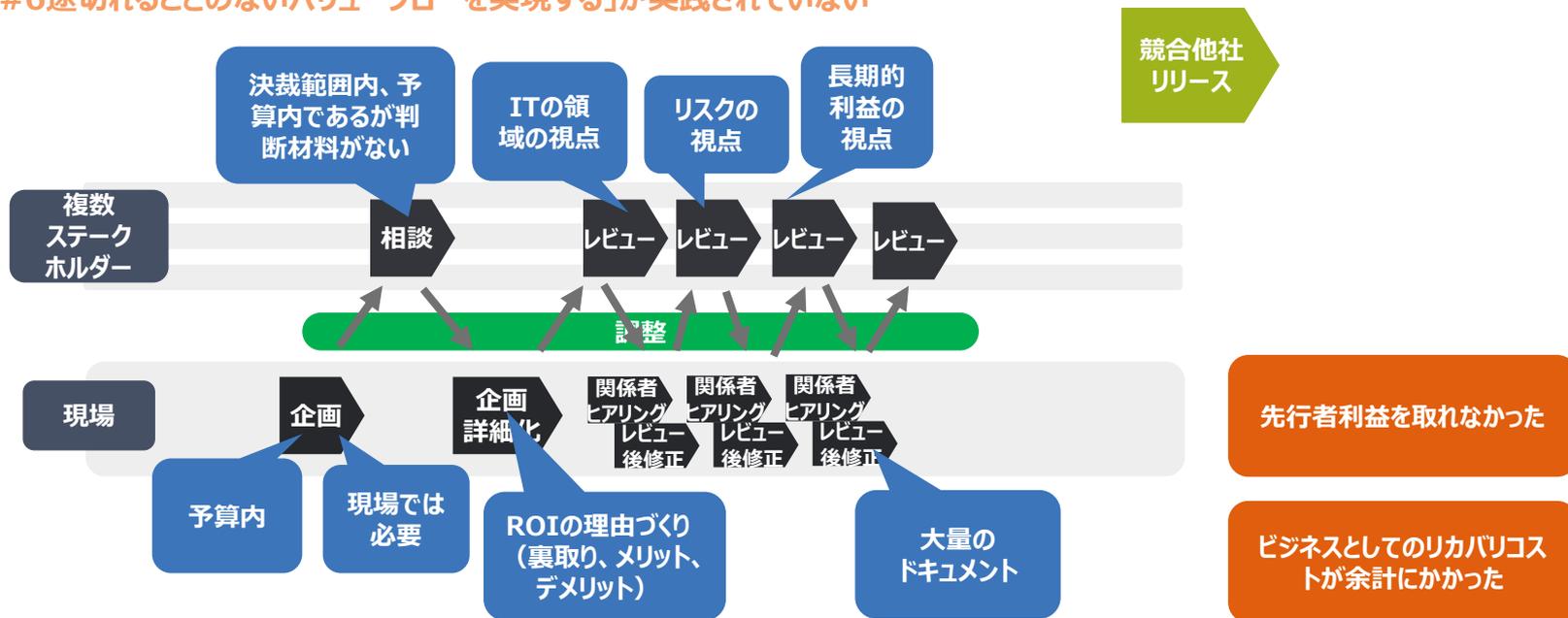


組織あるある？  
(実話)

# どこを向いて仕事しているのか？

すでに予算確保できていてやるだけなのに、社内でうだうだやって競合他社に先を越された。

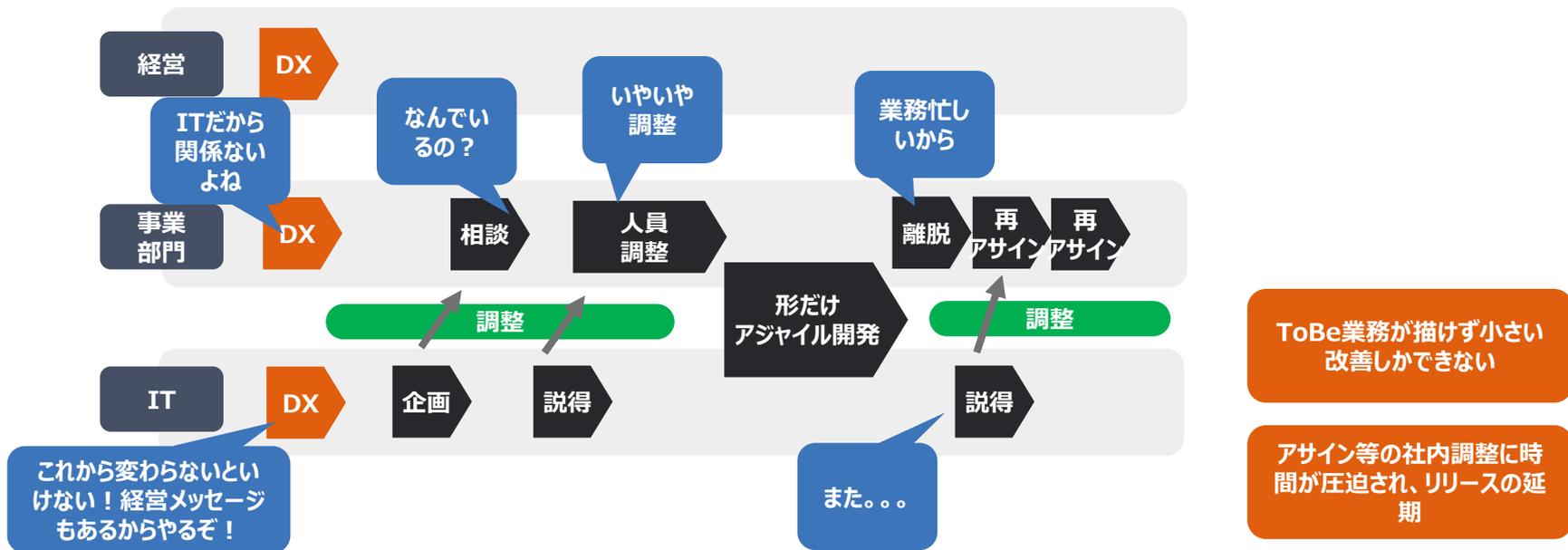
「#6途切れることのないバリューフローを実現する」が実践されていない



# DXはDX/IT部門だけが実施するもの？

経営として、内製化で進めていくと決めた。しかし、事業部門は、ITの話と切り離し、事業部門が非協力的。

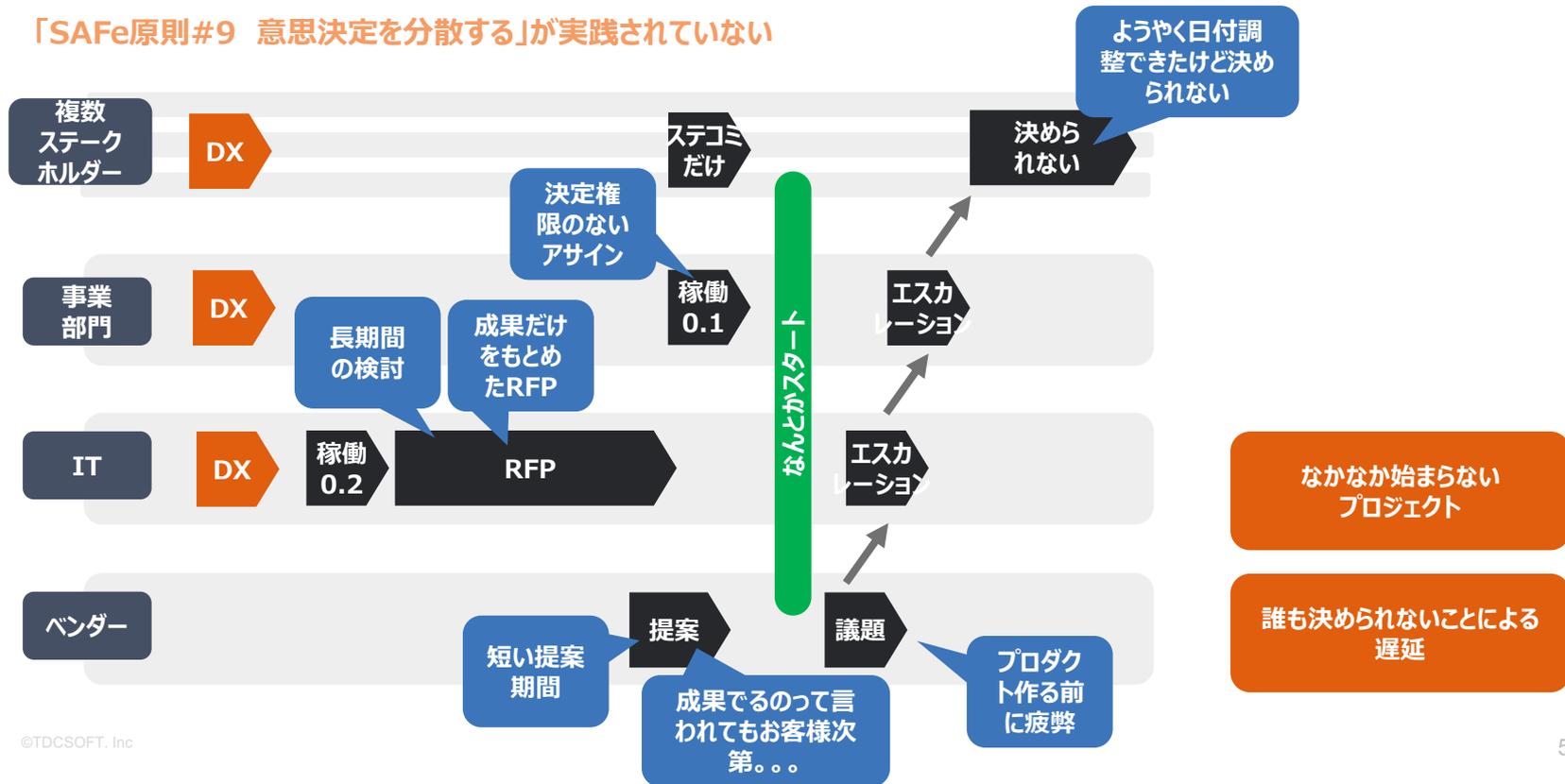
「SAFe原則#2 システム思考を適用する」が実践されていない

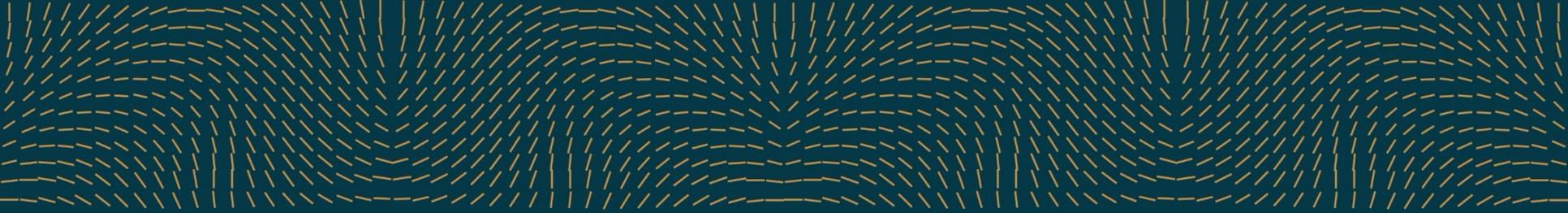


# DXはベンダーが実施するもの？

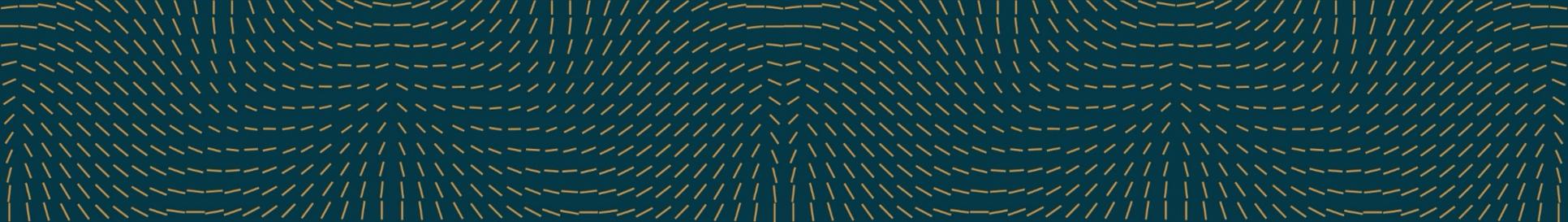
何のためのDX？ 自分達の事業を変動の世の中に対応できていくための施策では？

「SAFe原則#9 意思決定を分散する」が実践されていない





なぜそういうことが起こるのか？



- ▶ 要因は多岐にわたり1つではない。1つ共通して言えたことは、こういった状態は、企業（特にプロセス＝組織間）においてイケてないとは思いつつも「そんなもの」「あたりまえ」「変えられない」と思ってしまうバイアスがかかっている状態であった。
- ▶ その結果、起こっていることは、
  - すべての工程に遅延リスクが入った計画（余計なコスト・期間）
  - イノベーションのない施策（競合他社に後れを取る）
  - 目的や意義が分からない調整仕事ばかりで疲弊する現場（退職）



このようなことが原因として見えてくる。

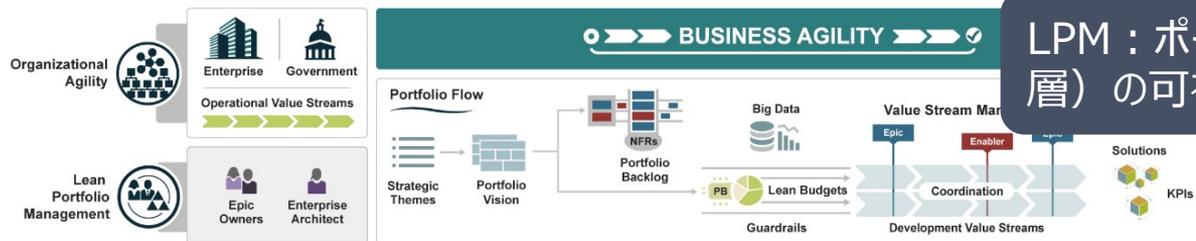
- ▶ 経営目標と事業目標と部門目標がリンクしていない。
- ▶ 事業レベルでのやるべきことが可視化・共有・理解されていないことにより、ステークホルダー毎の認識の不一致が起こっている。
- ▶ 価値は各部門を通してながれていくものであるが、その視座に立てている人がいない。（大きすぎ/深すぎて把握できてない、把握できる人がレア）
- ▶ 役割と責任が明確でない。
- ▶ プロセスは改善していくものだという考え方を持っていない。（変えられない、変えちゃだめだとすら思っている）



じゃあ、SAFeだ！

# ビジネスアジリティを実現するのがSAFe

- ▶ SAFeのLean Portfolio Management (LPM) や、PI Planning (PIP) などの各種プラクティス、Lean Agile Mindset (LAM) を組織の中に適用することで解決できる部分がある。



LPM : ポートフォリオレベル（上位層）の可視化・共有・理解促進



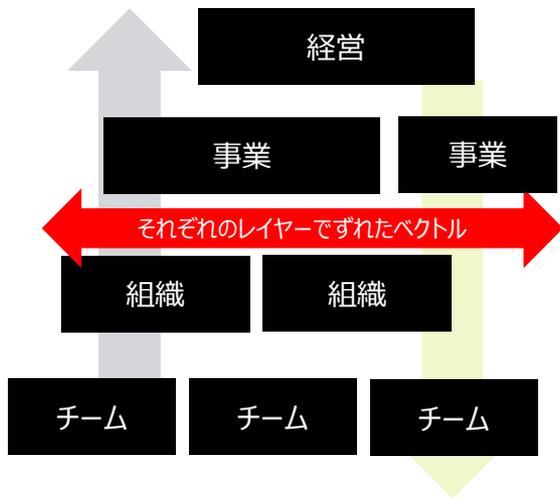
LAM : なぜ取り組むべきか？のこれからの仕事をするにあたっての基本的な考え方



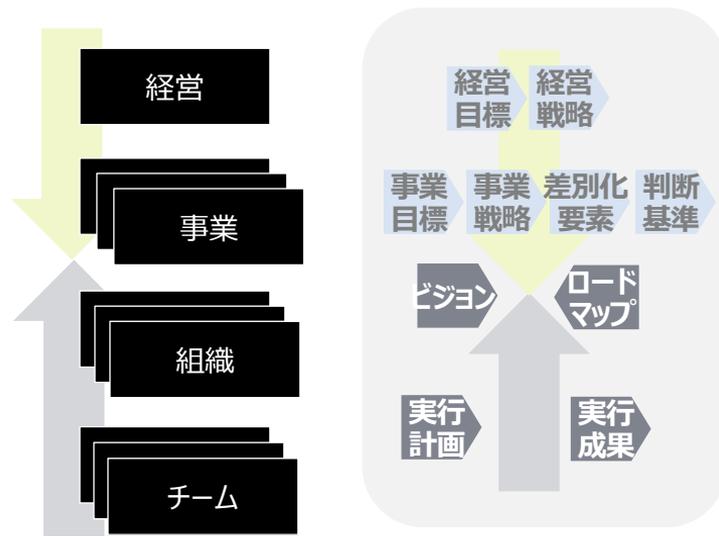
PIP : ビジネスと現場の仕事・計画の可視化・共有・調整

# 誰もがこうしたいとは思っている

これまで

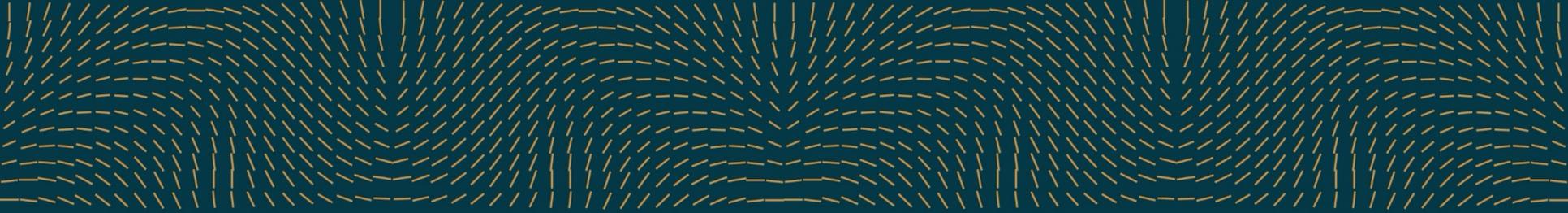


これから

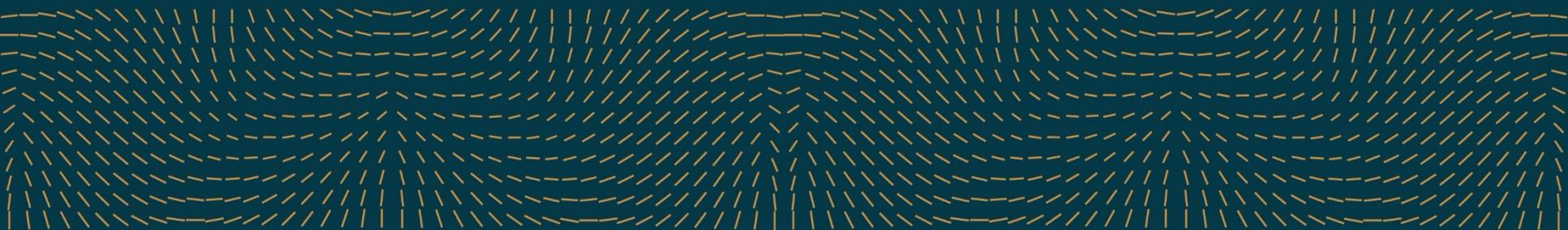


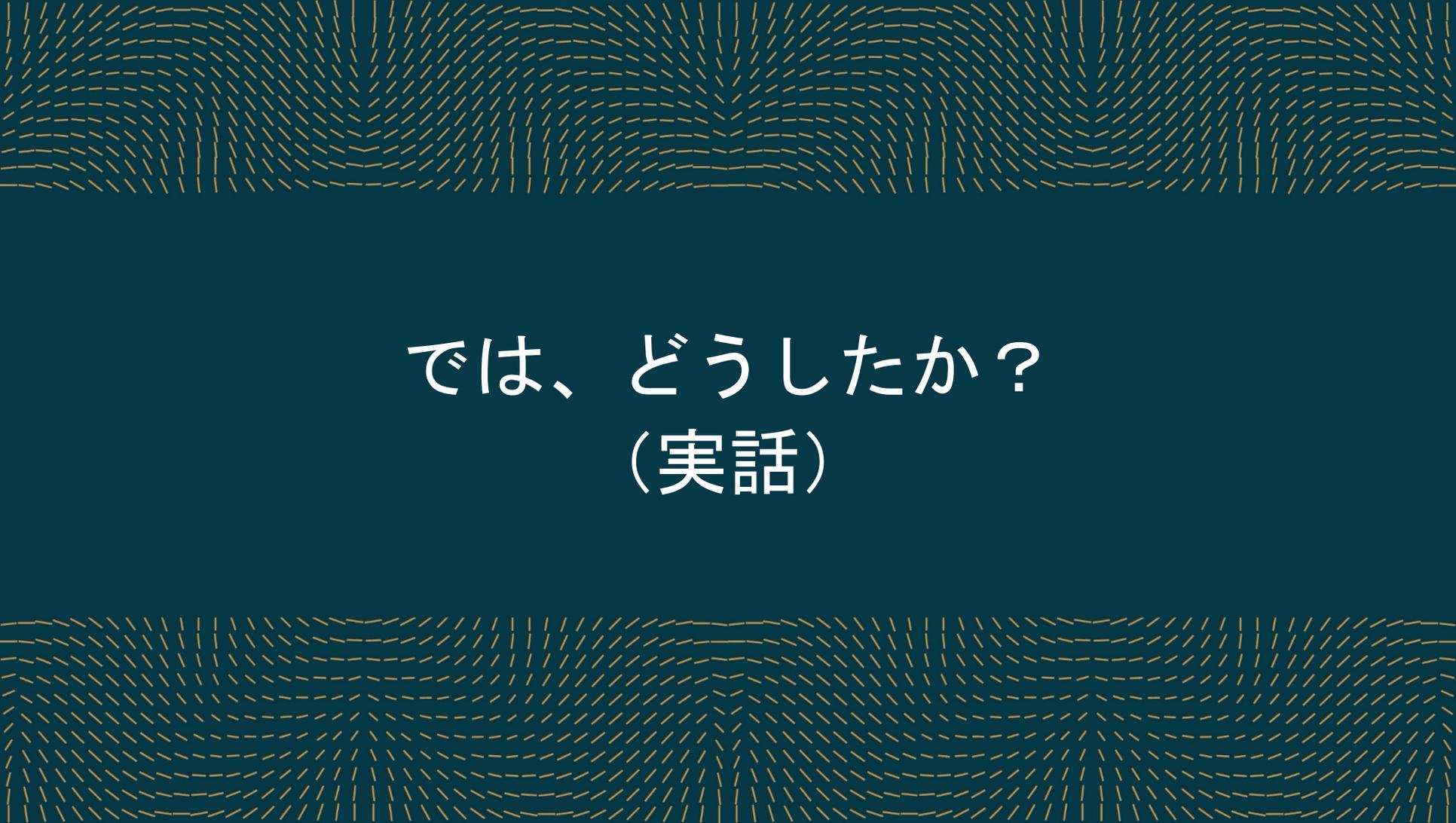
- ▶ 残念ながら、現実としては、
  - 目の前の仕事に追われ、検討する時間や、トレーニングを受ける時間が取れない。
  - アジャイルやSAFeはIT部門だけのものと思っていて対象外だと思っている。
  - 短期でわかりやすい成果のでるものしか興味がない上位層。
  - ミドルマネジメントでさえ、プロセスを変えていくのは、自分達の役割ではないと思っている。

**変えたいという思いを持っている人は、仕事が集中し、時間が取れず  
大多数は、自分達の範疇外。  
そこだけ穴が開いたようで進まない…**



悩ましいし、もどかしい



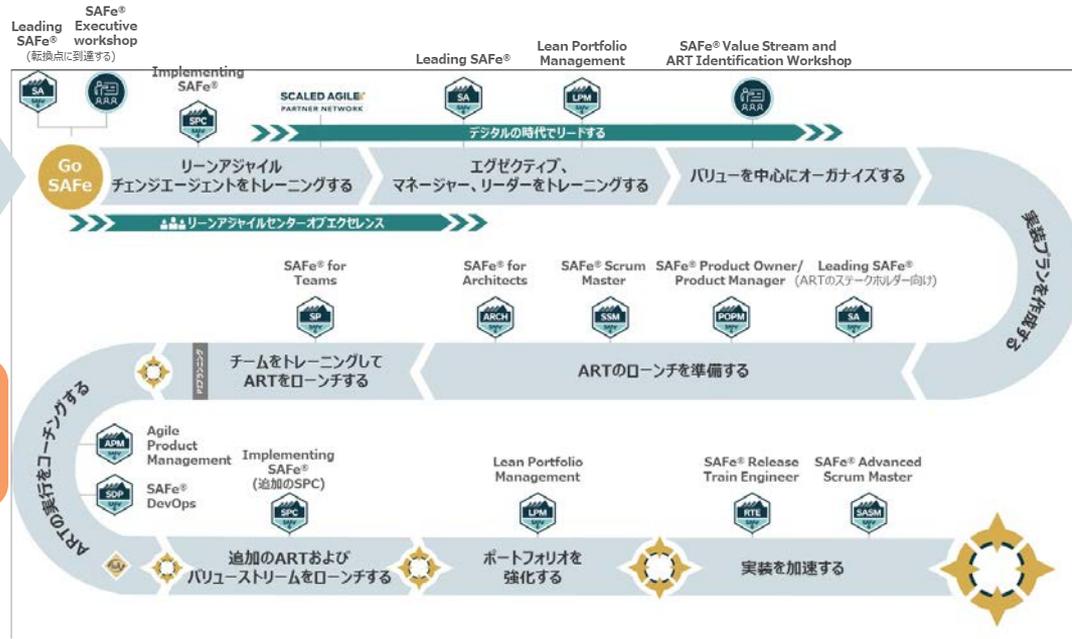


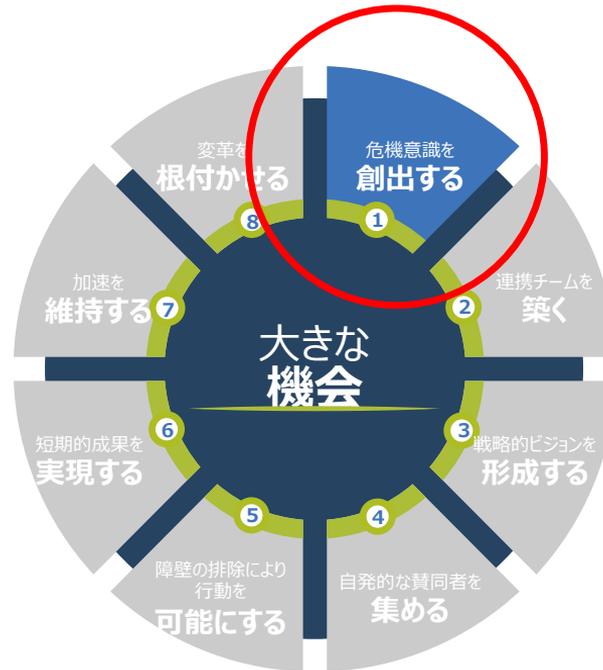
では、どうしたか？  
(実話)

# SAFe実践の前に組織の”土壌”を整える

危機意識  
の醸成

なぜ取り組むのか？  
のベクトルを揃える

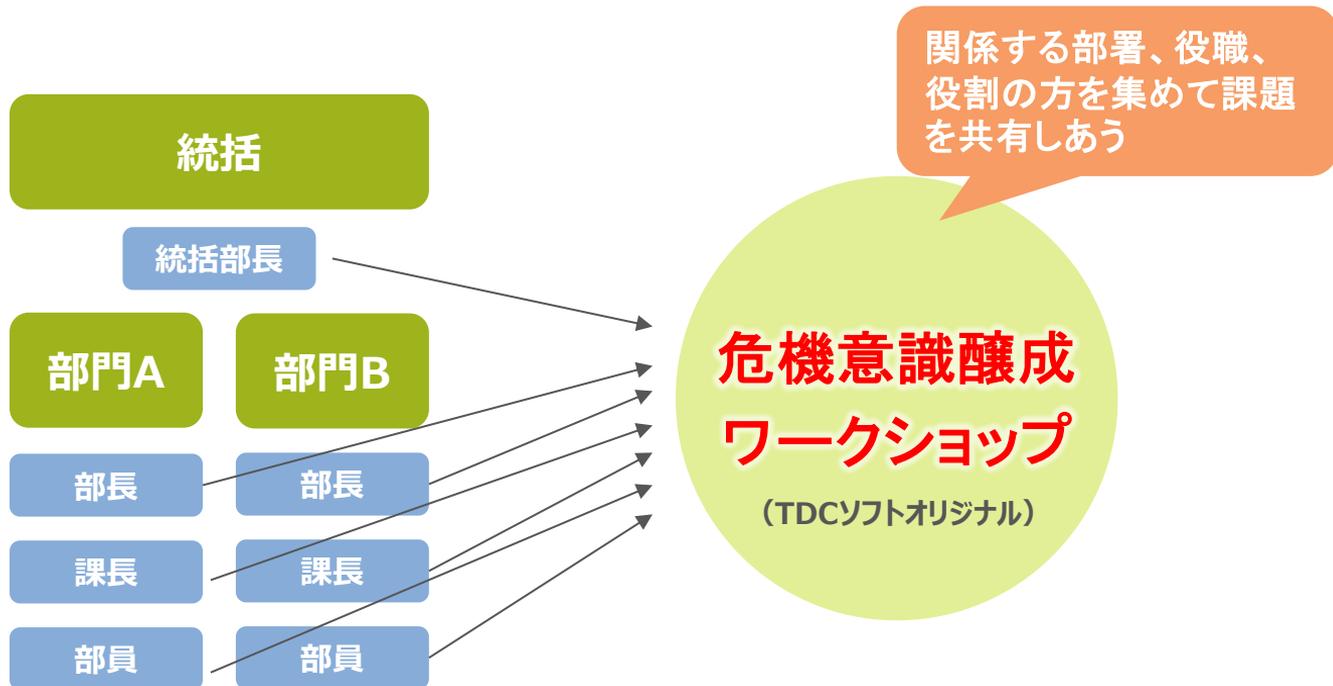




Kotter, Inc. による「変革をリードするための8ステップのプロセス」

# まずは、課題を表出化させる

- ▶ 課題を表出する（させる）ことで、「なぜ取り組むのか？」を理解する場として実践。





## ▶ ある製造業様A

- 課長はどうやら人間だった（部員）
- みんな同じ課題を持っていたことに気づけた（課長）
- これから積極的にほかの部署の主任とコミュニケーションをとりたいとわかった（主任）

みんな同じ課題感をもつ  
ていたことに気づけた

## ▶ ある製造業様B

- ビジネス部門としても（ビジネス部門・課長）
- それぞれの課題感を話し合えた（IT部門・主任）

（すべての顧客）

## ▶ あるIT会社様A

- 組織の課題として改めて立ち止まって可視化することで、各部長の違う側面を知れたし、自信をもって任せられる（統括部長）

## ▶ このワークショップを通じて改めて感じたこと。

- 部署間において、目の前の仕事における連携はあったとしても、立ち止まって会話する機会は意外とない。
- 同じ役職同士で、それぞれの課題感を共有しあうことはよくあるが、異なる役職で課題を、共有する機会も意外とない。
- 上長の考えは、想像以上に部下に伝わってないし、逆もしかり。（察してマネジメントはズレを招くだけ）
- 課題をアウトプットすることで、相手の考えているレベル感を知れる = 仕事を任せられることにつながる。

**伝わってるつもり、知ってるだろうで可視化（言語化）・共有を軽視がちだが、可視化し共有することは、横・縦の連携ができるし、ベクトルが合うことにつながる。**

# 改めて、可視化することの重要性

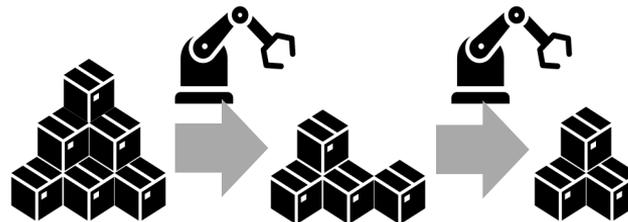
モノづくり以外



進んでいるのかな？  
何をしているのか？  
課題・問題あるのかな？  
停滞しているところあるのかな？

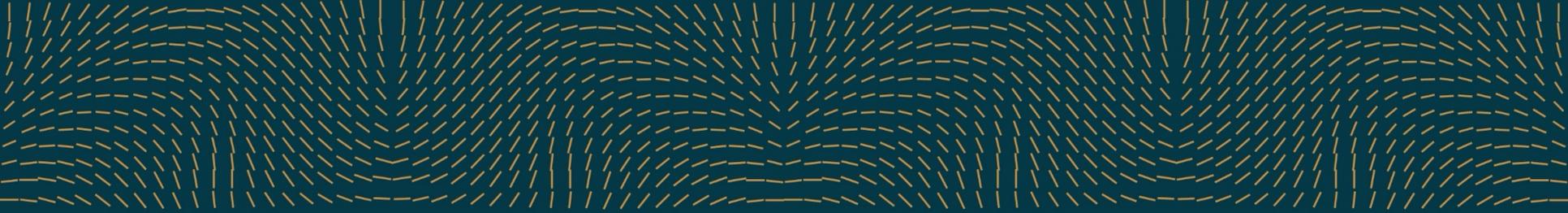
実は、わからないことだらけ。  
ドキュメントと口頭の報告に事実はあるのか？

モノづくり

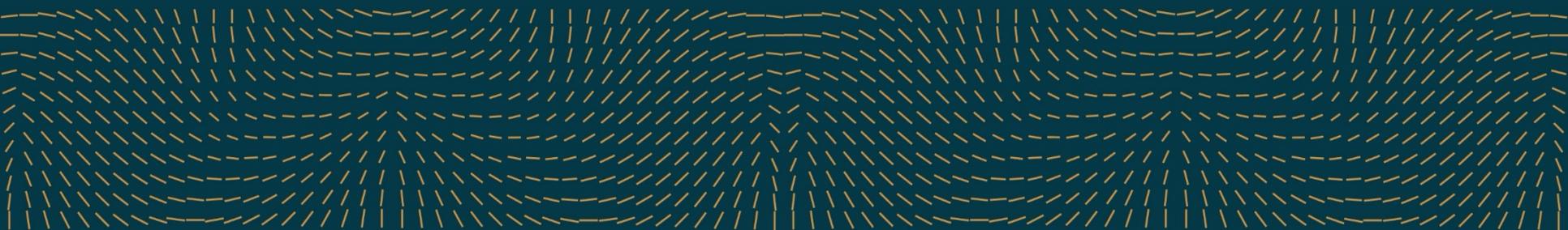


在庫積み上がってるな。  
この部分の進みが遅いな。

状態が見えていて、工程も見える。  
課題は自然と見えてきやすい。



まとめ



- ▶ **組織に存在するプロセス（横のつながり）に目を向けよう。**  
SAFe原則#2システム思考を適用する
- ▶ **組織プロセスは改善できること（バイアスがあること）を知ろう。**  
SAFe原則#6途切れることのないバリューフローを実現する
- ▶ **立ち止まって課題感を可視化・共有することは、仕事を任せることにつながる。**  
SAFe原則#9意思決定を分散する

# Thank You!

 **SAFe**<sup>®</sup>  
**SYMPOSIUM**  
**TOKYO, JAPAN**

© Scaled Agile, Inc © TDCSOFT, Inc

# アジェンダ

- |                    |                           |
|--------------------|---------------------------|
| 18:30-18:35        | オープニング                    |
| 18:35-19:00        | SAFe原則のレクチャー講演            |
| 19:00-19:30        | 事例講演                      |
| <b>19:30-19:55</b> | <b>Q&amp;Aおよびディスカッション</b> |
| 19:55-20:00        | クロージング                    |

# Q&A + ディスカッション



 **TDCSOFT**



 **SAFE**<sup>®</sup>  
PROVIDED BY SCALED AGILE

# アジェンダ

- |                    |                |
|--------------------|----------------|
| 18:30-18:35        | オープニング         |
| 18:35-19:00        | SAFe原則のレクチャー講演 |
| 19:00-19:30        | 事例講演           |
| 19:30-19:55        | Q&Aおよびディスカッション |
| <b>19:55-20:00</b> | <b>クロージング</b>  |

SAFeのトレーナー/コンサルタント資格が取得可能な  
SAFe 6.0 ベースのImplementing SAFeクラスを開催！

2024/5/27(月) ~ 31日(金)



荒井公一  
SPC Co-Trainer  
(TDCソフト)



TDCソフト &  
Scaled Agile共催



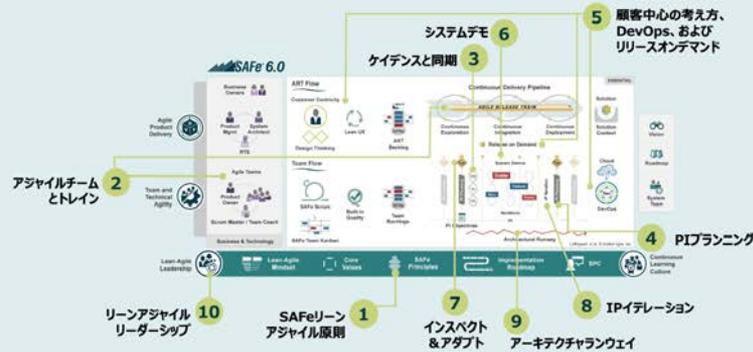
中谷浩晃  
SPCT  
(Scaled Agile)

# たくさん閲覧していただくと、日本語化の加速に繋がりますので是非たくさん閲覧してみてください



## SAFe 日本語記事 特設サイト

### Essential SAFe : SAFe導入 10の成功要因



### 【Essential SAFe】

#### SAFe 10の成功要因 (日本語記事)

- 1 SAFeリーニアジャイル原則
- 2 アジャイルチームとトレーニング
- 3 ケイデンスと同期
- 4 PIプランニング
- 5 顧客中心の考え方、DevOps、およびリリースオンデマンド
- 6 システムデモ
- 7 インスペクト&アダプト
- 8 イノベーション&プランニング (IP) イテレーション
- 9 アーキテクチャランウェイ
- 10 リニアジャイルリーダーシップ

<https://scaledagile.com/japanese-safe-articles>

# Japan SAFe シンポジウム 2024 フォローアップウェビナー特設ページ



## 【事前動画】 フォローアップウェビナー の事前準備コンテンツ

『変革を実現するためになぜ原則が重要なのか、その関連性について解説する動画です』

Japan SAFeシンポジウム2024では「変革」をテーマにイベントを実施しました。そのフォローアップとして「SAFeのリーンアジャイル原則」をテーマにウェビナーを開催する理由を解説する動画です。ウェビナー参加前にご参照いただくと内容を深く理解するために役立ちます。

[事前動画のご視聴はこちら](#)



## 【ウェビナー録画公開中】 2024年3月開催済 18:30-20:00開催

『変革成功の鍵：SAFeでチームメンバーのモチベーションを引き出す方法』

SAFeの日本国内最初の金融サービス事例となる『デジタルCAFIS』。その変革の推進者である長田武徳氏が、様々な苦難を乗り越えながら変革を推進する中で得た、実践の成功に欠かすことのできない原理原則を、初学者の方にも分かり易いストーリーと共にお届けします。

[録画視聴はこちら](#)



## 【ウェビナー】 2024年4月25日(木) 18:30-20:00開催予定

『VUCAの時代にごそ重要な組織間の連携 ～可視化・視野/視点・フロー～』

組織間連携に関する課題については問題意識を感じてはいるものの、多くは自組織の範囲外として、後回しになりがちです。本ウェビナーでは、組織間連携における課題に光をあて、どう課題解決から価値提供につなげていくのか？をSAFeの原則に照らし合わせ実例を用いて解説します。

[詳細確認とご登録はこちら](#)



## 【ウェビナー】 2024年5月22日(水) 17:00-18:10開催予定

『チームとツールを繋げてネットワーク型組織を構築する』

このセミナーでは、どのようにチームとツールを相互につなげ、ネットワーク型組織の構築していくのか、具体的なステップを探ります。参加者の皆様はSAFeの原則を実践するにあり、monday.comのワークマネジメントプラットフォームについて事例とデモを通じてご確認いただけます。

[詳細確認とご登録はこちら](#)



**Scaled Agile プラットフォーム**  
**パートナーからの最新情報の共有**  
**『チームとツールを繋げてネットワーク型**  
**組織を構築する』**

**岩瀬 義裕 (いわせ よしひろ) 氏**

Monday.com 株式会社  
カントリーマネージャー 兼 ストラテジックアライアンス担当

**2024年5月22日(水)**  
**17:00-18:10開催**



# Thank You!

アンケートに  
ご協力ください

 **SAFe**  
**SYMPOSIUM**  
FOLLOW UP WEBINAR